

# 教育振興運動60周年記念大会

実施日：令和7年1月14日（火）  
会 場：トーサイクラシックホール岩手  
大ホール  
参加者：約740名（参集650名、オンライン90名）  
主 催：岩手県教育委員会

令和7年1月14日（火）、トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）大ホールを会場に、各市町村教育振興運動関係者や一般県民の方々約740名の参加を得て、教育振興運動60周年記念大会を開催しました。

開会前には、運動10周年記念製作映画「わか芽の詩」の上映、高校生による地域の大切さを伝える作文発表、「教振標語コンテスト」の表彰式を行いました。そして大会前半では、趣旨説明とガイダンスの後、釜石市立大平中学校と紫波町教育委員会の事例発表から、『「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2～R6)』の全県共通課題の取組の様子やその成果を共有しました。後半では、「教育振興運動推進プラン(2024～2028)」の全県共通課題の一つである「体験活動の充実」を視点に、國學院大学の鈴木みゆき教授より、「体験活動と子どもの成長～5者連携の可能性～」と題して御講演いただきました。子どもの体験活動の重要性や非認知能力の育成について多大な示唆をいただき、今後の5者の役割分担や実践意欲を高める機会となりました。

## <開会行事> オープニングアトラクション

「地域を守るために」と題した作文を後藤穂風さん（一関第一高等学校）に発表していただきました。コロナ禍を通して、地域コミュニティについて感じたことを、近所の方との交流や子供会行事の取組といった視点からの主張でした。地域における世代を超えたつながりの大切さについて改めて考えるきっかけとなる素晴らしい発表でした。



岩手県立一関第一高等学校  
1年 後藤 穂風 さん

## <開会行事> 表彰「教振標語コンテスト」

県内各地から677件の応募があり、大会当日は、最優秀賞と優秀賞の計4名に対し、教育長から賞状と副賞が授与されました。



### 【最優秀賞作品】

#### <小中学生の部>

実体験 興味のとびら 無限大

（大船渡市立末崎小学校 鈴木 龍海十 さん）

#### <一般の部>

「子供の笑顔」 繋げる力は「地域」の中に！

（盛岡市第Ⅱ地区 千葉 歩 さん）



岩手県包括連携協定企業  
出店ブースの様子

会場の様子



## <趣旨説明>

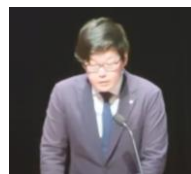
『「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2～R6)』(現プラン)の総括と「教育振興運動推進プラン(2024～2028)」(新プラン)の取組について説明しました。現プランの共通課題である「情報メディアとの上手な付き合い方」と「コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)との連携による「目指す子どもの姿」の共有に基づく運動の展開」について、最新の調査を基に取組の状況や成果を共有しました。また、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動との総合的・一体的な推進に関わる組織のあり方については、「何のためにするのか」という、目標設定の重要性を共有しました。そして、新プランの共通課題「家庭学習の充実」と「体験活動の充実」における取組の内容を具体例とともに説明しました。



岩手県教育委員会事務局  
生涯学習文化財課  
総括課長 小澤 則幸

## <ガイダンス>

「岩手県における学力向上の取組」と題して、児童生徒の確かな学力の育成に係る現状と課題、県が取り組む具体的な推進方策、県以外の主体に期待される行動の3項目で説明しました。「確かな学力育成プラン」に基づいた取組に加え、学校の組織的な取組の充実と、子どもの自主的かつ計画的な家庭学習の習慣化を図る必要があることを共有しました。また、「社会に開かれた教育課程」の理念に基づいた、主体的に未来を切り拓く多様な人材の育成の必要性も確認しました。それらの実現に向けた県の取組とともに、子ども・家庭・学校・地域・市町村行政に期待される取組内容についても、それぞれの具体案を提示しました。



岩手県教育委員会事務局  
学校教育室  
学校教育企画監 伊藤 兼士

# 教育振興運動60周年記念大会

実施日：令和7年1月14日（火）  
会 場：トーサイクラシックホール岩手  
大ホール  
参加者：約740名（参集650名、オンライン90名）  
主 催：岩手県教育委員会

## ＜事例発表＞

「地域学校協働活動・教育振興運動」推進5か年プラン(R2～R6)の取組について

- 1 「情報メディアとの上手な付き合い方」
- 2 「CS との連携による『目指す子どもの姿』の共有に基づく運動の展開」



釜石市立大平中学校  
副校長 河野 俊治 氏

釜石市立大平中学校は、地域、家庭、学校が一体となり、心豊かな子どもの育成とより良い教育環境の構築を目指す取組について発表いただきました。情報モラル学習やメディアコントロールの取組は、生徒自身の時間管理能力や情報の取扱いに関する意識の高揚につながったとのこと。学校と家庭が協力し、メディア使用時間を制限し、親子での対話を増やすことで、生徒の思いやりの心や自発的な行動力が育成される等、情報メディアとの上手な付き合い方に係る効果的な取組を紹介いただきました。



紫波町教育委員会  
社会教育指導員  
兼 CS コーディネーター  
佐々木 勉 氏

紫波町教育委員会は、教育振興運動組織を学校運営協議会と地域学校協働活動に移行し、地域、学校、行政、家庭が連携して子どもたちの課題解決に取り組んでいるとのこと。小中学生の社会参加活動では、多くの中学生が地域活動に参加し、自己肯定感が育まれているとのこと。コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の取組を通じて、地域と学校の連携が強化され、教育課題に対する協議が行われることで、子どもたちの学びが支えられている様子や、教育振興運動の理念が地域学校協働活動の中に引き継がれている様子を紹介いただきました。

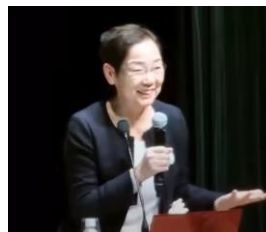
助言者の深作拓郎准教授（岩手大学）からは、岩手の教育振興運動が60年間続いていることへの敬意と、その運動が地域全体で目標を共有し、網目型の教育実践を行ってきたことについて評価していただきました。この運動を持続・発展させるために今後の方向性として、子どもの参画、多様性と総合性の強化、教育ウェルビーイングの視点を取り入れ、地域全体での教育実践を推進し、児童生徒の育成を目指すことを示していただきました。



岩手大学  
准教授 深作 拓郎 氏

## 【記念講演】

「体験活動と子どもの成長～5者連携の可能性～」



國學院大學人間開発学部  
教授 鈴木 みゆき 氏

鈴木みゆき教授（國學院大學）からは、体験活動が子どもの成長に及ぼす影響や、子ども、家庭、学校、地域、行政の5者連携の重要性について御講演いただきました。体験活動は、子どもたちに直接的、間接的、または擬似的な経験を通じて、意欲や問題解決能力、自尊感情、社会性といった「非認知能力」を育むものであることを、具体的な資料をもとに説明していただきました。特に、子どもたちの知的好奇心を育み、文化的体験を提供することが大変重要であると強調されました。また、貧困による体験の格差が生じている現状にも触れ、経済的背景に依存しない形で体験活動を提供する仕組みの整備や、家庭内での基本的な生活習慣や家庭行事が、子どもの成長において人格の基盤を形成する大変重要な役割を果たすことを強調されました。全ての関係者が力を合わせて、子どもたちの未来を支える取組の重要性について示していただきました。

国学院大学人間開発学部教授 鈴木 みゆき 氏

## 【参加者の声】

- これまでの取組を参考にしつつ、これからの発展につなげていくための新たな発見と気づきがあった。
- 60年の実績の積み重ねのプロセスを大切にしながら、これからの実践を丁寧に積み重ねていきたい。
- 鈴木先生の講演をお聞きし、体験活動と子どもの成長には、大きな関係があることを改めて考えることができた。
- 事例発表テーマは共通する問題だったので、今後の自治会活動に活用していきたい。
- 改めて5者連携の重要性を感じる大会だった。今後、社会教育を展開していく上で欠くことのできない視点、参考となる事例の分析等について、とても分かりやすく話していただき、有意義な時間となった。

## 【参加者の評価(大会全体)】

A 満足した	67.0%
B ある程度満足した	30.9%
C どちらともいえない	1.6%
D あまり満足していない	0.5%